

いきいきと楽しく魅力ある活動を

退職者の会 第19回全国総会「議案」のポイント

シンボルフレーズ 『安心・信頼、生きがいあふれる 21世紀、みんなと共に！』

### 2016年度の活動を振り返って

2016年度は、「東日本大震災」「熊本地震」からの復興・再生と、その教訓を生かした防災・減災への取り組み、会と会員とのコミュニケーションの強化を中心に、「現・退一致」の運動の推進を基本として、積極的に取り組んできました。

特に、「熊本地震」支援カンパの集約金については、熊本県支部協が中心となり、現役の各組織とも連携し、被災した会員との対応を進めました。

その結果、会員1428人に、「弔慰金」「見舞金」として、合計7613万円を届けることができました。

会員拡大の取り組みは、現役組織と支部協が連携し、対象者の把握や説明会の企画・運営を行ない、着実に成果が上がりました。

今年度の会員数は、12万1889人となっています（2017年6月現在）。

特徴的なのは、大都市圏で会員が大幅に増加傾向にあることです。

各地域ごとの加入状況や取り組み方法などを分析し、改善を図りながら、引き続き、100%の加入率をめざします。

### 2017年度の具体的取り組み

『安心・信頼、生きがいあふれる 21世紀、みんなと共に！』という会のシンボルフレーズを合言葉に「自主・自立」「健康・親睦・相互扶助」を基本に、いきいきと楽しく、魅力ある活動を展開します。

#### 1. 「東日本大震災」「熊本地震」からの復興・再生に向けた取り組み

NTT労組の取り組みとも連携し、引き続き、被災地・被災者に寄り添った支援を行なっていきます。

合わせて、各地で頻発する自然災害への警戒を強め、支部協と連携し、防災・減災の啓発、危機管理に取り組みます。災害発生時などに着実に会員・家族の安否確認ができるよう、連

絡体制を確立し、有事の際の対応を強化します。

## 2. 「会と会員との双方向のコミュニケーションの充実」について

会と会員の絆・つながりを重視し、女性の参加・参画も積極的に推進していきます。

昨年度のブロック会議（全国6ブロック、今年3～4月）や全国交流集会（同5月）などでは、各支部協から、機関紙の手配りや会員宅への訪問、サークル活動、電話を活用したコミュニケーションなど、地域性を生かし創意工夫した取り組みが報告されました。

今年度も、これら会議の内容を機関紙やホームページなどに掲載して共有化し、皆さんの意見・要望をふまえながら、さらなる充実をめざします。

## 3. 各種選挙の必勝へ 取り組み強化

これまで、「安倍一強」状況が続く中で、安倍政権は、森友学園への国有地売却問題、加計学園獣医学部新設の問題、『組織的犯罪処罰法改正法』（『共謀罪法』）の強行採決など、国民の声を無視した国会運営を続けてきました。

その結果、国民の厳しい批判と不信の高まりで支持率も大きく低下し、東京都議会議員選挙での惨敗、続く仙台市長選挙での野党統一候補勝利など、安倍政権の基盤は大きく揺らいでいます。

しかし、野党第一党である民進党は、政権の受け皿どころか党の存在そのものが問われている状況にあり、体制の再構築が急務となっています。

安倍政権の暴走を止め、国民のための政治を取り戻すためにも、民進党には、働く者・生活者を重視した明確な政策を早期に確立し、党勢回復をめざすことを強く期待します。

第48回衆議院議員選挙、第25回参議院議員選挙では、働く者・生活者・納税者の視点に立った政策の実現に向け、私たちの「声」を国政の場に届けるため、思いを共にする組織内議員等と連携し、支部協への対応を行なっていきます。

特に、衆議院議員選挙では、組織内『田嶋要』衆議院議員（千葉一区）の再選をはじめとする推薦候補者全員の必勝を、参議院議員選挙では、組織内『吉川さおり』参議院議員（比例代表）の三期目の勝利に向けた取り組みを強化します。

また、「アピール21」の加入促進は、通年の取り組みとして進めます。

## 4. レク・サークルや社会貢献活動について

支部協や地区協では、仲間たちとの交流・懇親、生きがいつくりなどを目的に、創意工夫しながら、さまざまな行事やレクを企画・実施し、サークルやボランティア活動も活発に行なわれています。

引き続き、支部協・地区協の、地域性を生かした主体的な活動を推進します。

平和・環境など社会貢献活動は、地域に密着した活動から、全国展開するN T T労組の活動まで多岐にわたり、多くの会員が参加し、活躍しています。

今年度も、退職者連合をはじめ、連合・情報労連など現役組織とも連携し、諸活動に取り組みます。

特に、私たち退職者の会は、「平和を継承する」という大きな役割があります。

世界の恒久平和と核兵器廃絶を求め、あらゆる戦争に反対する立場で、情報労連「平和四行動」、平和学習会をはじめ、平和を守り伝える活動に参加・参画します。

また、沖縄の基地負担のさらなる固定化につながる辺野古新基地建設に反対し、「日米地位協定」の抜本的見直しをめざします。